

学校いじめ防止基本方針（概要）

「いじめ」とは、生徒に対して、当該生徒が在籍する学校に在籍している等当該生徒と一定の人間関係にある他の生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものも含む）であって、当該行為の対象となった生徒が心身の苦痛を感じているものをいう。……以上、いじめ防止対策推進法 第2条より抜粋

けんかやふざけ合いであっても、見えないところで被害が発生している場合もあるため、背景にある事情の調査を行い、生徒の感じる被害性に着目し、いじめに該当するか否かを判断する。

1 いじめ防止についての基本的な考え方

いじめは、全ての生徒に関わる問題です。また、いじめられた生徒の心身に深刻な影響を及ぼす許されない行為です。いじめ防止のためには、いじめにつながりかねない兆候を教職員が見逃さないように努めるとともに、学校のみならず、家庭・地域と連携しつつ、組織的に対応していく必要があります。

何より学校は、生徒が教職員や周囲の友人との信頼関係の中で、安心・安全に生活できる場でなければなりません。生徒一人一人が大切にされているという実感をもつとともに、互いに認め合える人間関係をつくり、集団の一員としての自覚と自信を身に付けることができる学校づくりに取り組んでいきます。そうした中で、生徒が自己肯定感や自己有用感を育み、仲間と共に成長できる魅力ある学校づくりを進めなければならないと考えます。

2 いじめ防止・いじめ問題対策組織

「いじめ防止・長欠対策委員会」および「生活指導委員会」、「教育支援委員会」を設置し、いじめの兆候や懸念、生徒からの訴えを特定の教員が抱え込むことのないよう、組織として対応する。校長、教頭、教務、校務、校務補佐、生徒指導アドバイザー、特別支援コーディネーター、指導員、養教、学年主任、生徒指導主事、進路指導主事等で構成し、必要に応じて、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等を加える。

なお、訴えに対して、機動的に対応するため、「いじめ対策実務部会」を置く。その構成員は適宜選任する。

「いじめ防止・いじめ問題対策組織」の役割

- ① 「学校いじめ防止基本方針」に基づく取組の実施と進捗状況の確認
 - ・ 学校評価アンケート等による学校におけるいじめ防止対策の検証を行い、改善策を検討していく。
- ② 教職員への共通理解と意識啓発
 - ・ いじめに関するアンケートや個別面談の結果の集約、対策の検討等、いじめ防止対策に努める。
- ③ 生徒や保護者、地域に対する情報発信と意識啓発
 - ア 保護者や地域の声に耳を傾ける
 - イ 開かれた学校づくりに努める
 - ・ 随時、学校だよりやホームページ等を通して、いじめ防止の取組状況や学校評価結果等を発信する。
 - ウ 正確な情報を伝える
 - ・ いじめが発生したら、必要に応じて情報を提供（個人情報留意）し、保護者や地域の信頼を確保する。
- ④ いじめへの対応（またはいじめの疑いがあると思われるときの対応）
 - ・ いじめについては迅速かつ正確な事実の把握に努め、問題の解決にむけた指導・支援体制を組織する。
 - ・ いじめへの対応については、必要に応じて、外部の専門家、関係機関と連携して対応する。
 - ・ いじめの指導は、学校の主体性を維持しながら、警察等関係機関と連携して対処する。

3 今年度の基本方針

(1) 昨年度のいじめの実態から明らかになった課題

○生徒間同士のトラブルがあったことを十分に把握できなかったり、いじめにつながる事案についての情報共有や聞き取りが不十分だったりしたため、迅速に対応や支援ができなかった。

(2) 課題を解消するための今年度の取組

- ・いじめ事案に発展しそうな場合は、軽微なものも即座に実務者会議を行い、支援の情報を共有したり、支援の方向性を定めたりする。
- ・生活アンケートの実施後は、面談を行い、緊急なものはいじめ対策委員会のメンバーで情報を共有する。
- ・生徒の意見を聞きやすくするために、クラス担任だけでなくその他の先生にも話を相談できる環境を整える。
- ・毎日、タブレットや生活ノートを使った「心の健康観察」を行い、常に生徒の心の状態を把握し、変化があった場合にはすぐに声かけを行ったり、相談に乗ったりすることで、大きなトラブルへの発展を防ぎ、安心して生活できる環境を整える。

4 いじめの未然防止の取組

- ①協働的な学びを通して、生徒同士の関わりを大切にし、互いに認め合い、共に成長していく学級づくり・授業づくりを進める。
- ②教育活動全体を通して、道徳・人権教育の充実を図るとともに、体験活動を重視し、命の大切さ、相手を思いやる心の醸成を図る。
- ③自他のよさを感じられるように、「認め愛活動」（自他のよいところを見つける活動）を実施する。
- ④情報モラル教育を推進し、生徒がネットの正しい利用とマナーについての理解を深め、ネットいじめの加害者、被害者とならないように、継続的に指導する。

5 いじめの早期発見の取組

- ①いじめに関する定期的なアンケートや個別面談等により、生徒が相談しやすい環境を整える。
- ②教師と生徒との温かい人間関係づくりや、保護者との信頼関係づくりに努め、相談しやすい環境を整える。
- ③いじめ相談電話等、外部の相談機関を紹介し、生徒が相談しやすい環境を整える。

6 いじめへの対応

- ①情報を共有し、迅速かつ組織的に対応して、いじめを受けた生徒を徹底して守り通す。
- ②いじめを行った生徒には教育的配慮のもと、毅然とした姿勢で指導や支援を行う。
- ③教職員の共通理解、保護者の協力、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等の専門家や、警察署、児童相談所等の関係機関との連携のもとで取り組む。
- ④ネット上のいじめへの対応については、必要に応じて警察署と連携して行う。